城兩縣下の監督と云つた形であつた。

斯くて教勢益々振ひ忽ちにして再び會衆堂に滿つるの盛況を呈した。そこで「仙臺並にその附近のみならず、此氣運に乘じて一擧東北全体を教化せん」との希望が起り、押川吉田兩氏だけでは所詮その手不足なるを感じ私かに他の適當なる團体と提携せんことを考慮した。偶先に約束した献金も僅か二三ヶ月にして實收逓減し遂に俸給の支拂ひにすら事缺きがちになつた。如斯にして愈々提携の必要を感じたので、メソヂスト、バプテスト、組合、一致諸教會より規則を取り寄せ各教會に於ける教會政治の運用狀況を調査し初めた。之を知つた各教會よりは態々人を派して夫々自派と提携せんことを勸誘した。即ち組合派からはギューリック氏、バプテスト派からはポート氏、メソヂスト派からはハリス氏一致派からは初め文書を以て勸誘し後バラ氏とフルベッキ氏とが來仙した。バラ氏が押川氏に宛てた大切な手紙は今記者の手許にないが大体こんな意味だつたと記憶する。「お前は方々の教會規則を調べてゐるさうだ。そして各派では夫々人を派遣して提携方を勸誘してるさうだ。併しお前の母は唯一人であることを記憶して貰ひ度い。(押川氏はバラ氏の弟子)若し私の方に歸り私達と提携するなら新來の宣教師を送り、東北の處女地を思ひの儘に開拓させる」と此の手紙が大に押川氏の心を咬つたのである。かくて明治十八年の秋東京中會で准允を受け茲に仙臺教會が仙臺一致教會となつたのである。

十八年の九月頃吉田先生が用辯の爲國分丁を南下した。途上(多分只今の虎屋横丁邊だつたと思ふ)西洋人の佇んでゐるのを見た。ホーイ氏と云ふのが之だナと思ひながらツカ〳〵近づくと仝氏は傍の床屋に先生を案内した。果然内にグリング氏あり、髭剃半ばにして戸口に出で佇立せるホーイ氏を携行せる由挨拶し且つ仝氏を紹介した。ホーイ氏は一旦歸京して仝年終りに更めて來任した。寓を琵琶首にトし初めの間は吉田先生の宅で食事をしてゐた。仝氏には着任匆々女學校並に神學校を設立する希望があつたけれども、未だ日本語を解せず亦市民の側でも一般に英語を知なかつたので齋藤秀三郎氏が專ら通譯の勞をとつて居つた。續いて女教師ブルボー姉妹及オールト嬢が來仙した。

明治十九年春神學候補生を集め木町通北六番丁角より二軒目に一民家を借りて此處に宿泊せしめ田邊某女に賄はせてホーイ氏押川氏及菅田勇太郎氏が交互に其處に授業に出掛けるのであつた。塾生は島貫兵太夫、早坂千之助、早坂寅哉、橋本宗之進、松田順平、田村兼哉の六名だつた。是が頓て仙臺神學校となり東北學院となつたのである。之と殆んと同時に東二番丁田邊繁久氏邸を借りて一小女塾を開いた。是が即ち宮城女學校の濫觴である。

仙臺一致教會は男女西洋人が參加したので益々盛大になつた。當時バプテストの一集會場があつたきり未だメソヂストも組合もなかつたのである。十八年末には教會が愈々狹隘を感じ、移轉の急に迫られてゐた。十九年に入りて偶東本願寺が七十七銀行の抵當流れになつてることを探知し、押川氏吉田氏及首藤陸三氏等相謀り私かに之を買ひ受けることに決し、貳千六百坪を壹千六百圓で買ひ入れることに契約した。けれども勿論金がなかつたのである。會員一同が非常な決心を以て結束した或者は不可能の程度迄奮發して購入費に喜捨した。けれども如何せん會員の數に限りがあつたのである。偶その半分を神學校に分讓する相談が纏り即ち壹千參百坪を壹千五百圓で仝校に賣却した。之が只今の神學部の敷地なのである。(終)

◎在米同窓の住所訂正(七月一日着)

左記通信から左の通り訂正せよとの通信があつた。

小畑鐵五郎君
關口熊吉君
菅井浩二君

P. O. Box 804 Vacaville, Calif.
308 Stanislaus St. Modesto, Calif.
251 Post St. San Francisco, Calif.

雜報

▲郡山教授の消息

外國に行く代りになる良い方法は、外國人に接する事だ。過ぐる週間私共はさうした特權を與へられた。私共は日本の郡山教授を數日間私共の客に迎へて(ミッション、ハウス、カレッヂ)色々の事を聞かせて貰つたのである。

教授は私共の姉妹校、東北學院の英語教員であるが、單に誠實な一基督者である計りでなく、且而目な人生の研究家である。教授は博い識見を以て今日の殆と凡ゆる問題に公平な意見を述べる事が出來た。教授は世界大戰の結果、單に米國のみならず世界各國を通じて青年が道德的スランプに陷つてゐたと私共に敎へ、また、世界の平和は着々恢復中だが、基督者にはまだ！戰ふべき戰がある即ち罪惡と惡魔に對する靈的戰爭である、と警告された。東洋の兄弟が私共を誡めた其の熱心さに私共は、私共の宗教的活動の弛緩と無關心さに愧ち入つた。日本の友人は生れ落ちるとからそれを知つてゐる私共よりもつと多く活ける福音に感化されてゐるのだ。余りに抽象的になつた私共の宗教に再び活力を注ぎ、之をもつと實際的なものとなす爲に、いつか基督教は東洋から私共に逆戻りする。

私共は最初、私共のミッションによつて蒔かれた、福音の種子が斯くも見事に實り今日の當り、其の實例を見る事が出來た事を喜ぶと倶に此福音が益々多くの人々に傳へられん事を希望して止まない。云々(五月廿二日發行ミッション、ハウス、ニュースから)

▲院長の近況　五月十七日米澤出張、同日午後一時半米澤着、二時より縣立工業學校教員及生徒に講演、同夜米澤教會創立四十年記念傳道說教、翌十八日午前十時記念禮拜說教午後米澤出發同夜歸仙。

五月廿六日夜行で上京、翌日用辯再び夜行で歸仙。

六月七日(土)院長夫妻主催でフアウスト博士夫妻送別晩餐會を社交館で開催。

六月八日(日)午後二時より學院中學部で開催の仙臺地方神國運動宣言大會で講演、講演の筆錄第一面に掲載。尙同日はペンテコステ記念日なので、院長は更に外人團記念禮拜に於ても說教された。即ち午後に二回講壇に立たれた譯だ。

院長は毎週月曜日には、高等學部で二時間授業、火曜日は中學部で三時間水曜日は神學部で一時間、日曜日午前一時間學院教會で主として高等學部生の爲聖書講義、水曜日午後は中學部五年生有志から成るテモテ會な自邸に開會、其他月に二回高等學部青年會の聖書講義を擔當してゐる。木金土の三日は夫々高中神學部に在りて校務に缺掌。

▲米國遊學中の郡山教授は七月歸朝の筈。

▲ジーグ博士が再び學院教授として來朝せらるゝ事は既報の通りだが、愈々八月下旬來仙の由。

▲東北の學校、並に教會の爲に多大の同情を以て後援せらるゝルップ博士は、再びミッション事業視察の爲來朝せらるゝ事に決したる由通信あり、來仙の期は多分八月下旬

(以上鈴木市治郎記)

▲叙位勅諸君。

畑井新喜司氏。出身者中唯一の勅任官たる同氏は、今回勅三等に叙せられ瑞寶章を賜はつた。(五月廿四日官報)

高橋喜八郎氏。(大阪地方裁判所判事)從五位に特叙(同廿七日官報)

尙ほ報告は無いが、同氏には五月廿日任地で卒去せられた旨、廿九日の官報に出て居る。照會したけれど未だ返報に接せず。

佐々木順三。(現靜岡高校教授)清野耕治(現第四高校教授)兩先生には(お二人とも舊教師)何れも勅六等に叙せられ、瑞寶章を下賜せらる。(五月廿六日官報)

高橋政雄君。(九州帝大法學部助教授)及大槻虎男君(東京女子高等師範學校教授)の兩氏は高等官六等に昇叙(六月三日官報)

大曾根源助。加藤金平。櫻田茂の三君には(何れも大阪府立醫啞學校教諭)今回高等官七等に昇叙せらる。(五月二日官報)

川守田麟三君。本縣農林技師より山口縣農林技師に榮轉高等官七等に任ぜらる(五月六日官報)因に同君には全家を擧げて同地に移轉せらる。

工藤進君。(横濱市立横濱商業專門學校教授)今回公立實業專門學校教授に奏任高等官七等の待遇を受けらる(五月廿三日官報)

内藤陳行先生。同志社を退職せられ暫時の間大阪で活動せられつゝあつた同氏には、去四月より、横濱市南太田町の關東學院高

▽新築三層樓　▽綺麗な客室　▽室内電話　▽大廣間の設備　▽風光絶佳の温泉郷　▽保養　▽御指定内湯旅館　(取)